

# 公民館報

発行  
2021  
11/30

# まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 58

## 秋晴れの日農作業

昔ながらのハゼ架けで  
太陽の恵みを受けた米を  
ハーベスターで脱穀中

# やっぱり好きになる松本のまち

日常の中で見逃しているまちの魅力を再発見するプロジェクトが今展開されています。

## どうなプロジェクト?

松本市や松本商工会議所などが松本まちなかアートプロジェクト2021実行委員会を組織し、本年7月から来年2月まで「松本まちなかアートプロジェクト2021」を実施しています。

## パルコde美術館

プロジェクトの中心事業としては、「パルコde美術館」として、市内の商業施設で美術展が開催され、松本市や長野県ゆかりのアーティストの作品が「つながる箱」をテーマに展示されています。

会場に一歩足を踏み入れると、商業施設の一角とは思えない異空間に包まれ、いっと



協賛店に貼られたポスター

このプロジェクトには、およそ100の商店が協賛しています。特徴的な建築そのものがアートになっている店、看板が作品になっている店、「工芸のまち松本」らしいクラフト作品を扱う店など、まちなかに眠る

き日常を忘れ、アートの世界に入り込んでいきます。

松本市出身の草間彌生さんをはじめ、彫刻、漆芸、絵画、写真、インスタレーションなど、さまざまなジャンルで活躍する現代作家の作品を鑑賞することが出来ます。また、アートグッズなどが並ぶ併設のミュージアムショップも楽しむことができます。

ちなみに入場者は、10月末で16864人となりました。

★インスタレーションとは鑑賞者が、芸術作品を見るだけでなく、美体験を通して体感し楽しむことに焦点が当てられている現代アート

## まちなかでは

よそ100の商店が協賛しています。特徴的な建築そのものがアートになっている店、看板が作品になっている店、「工芸のまち松本」らしいクラフト作品を扱う店など、まちなかに眠る

## お店で何を再発見

アートの観点で見直すことのできるようなことを発見できるのか、このプロジェクトに協賛するベラミ人形店で検証しました。

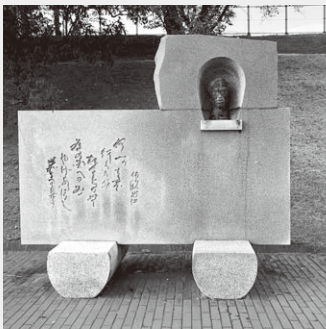
ここには江戸時代以前からの貴重な「押絵」が数多く展示されています。博物館の閉館もあり、当時の押絵を見られるのはこのお店だけです。

押絵は武家の子女のたしなみで、豪華な布を使い、手間をかけて作ることを競った時代もあつたそうです。その後、

アートを発見できます。また、「パルコde美術館」観覧券の呈示によりドリンクやフードの優待サービスを提供する店舗もあります。

## わがまち自慢(白坂地区) ミニ文学散歩ができる名勝地

1843(天保14)年、時の松本藩主戸田光庸が、領民遊覧の場所として開放したのが始まりという城山公園は、明治以降も大きな催し物が開かれたり、散策の場所として市民に親しまれてきました。現在は桜の名所として、シーズン中は大変な賑わいです。令和2年



木下尚江顕彰碑

には松本市特別名勝に指定されています。また、公園の一つの魅力として、建立されている十数個の歌碑や句碑があります。

窪田空穂、浅井洌、木下尚江、杉田久女、加藤犀水、浅田雅、浅原六朗、吉江孤雁、香川景恒の石碑、いわさきちひろのミニメント、芭蕉句碑などがあります。それらを鑑賞しつつ、穏やかな秋の日差しを浴びて散策すると、心地よい汗を流せるウォーキングコースとなります。そして、紅葉の市内が一望できる展望台に登れば、そこはお勧めの秋満喫エリアです。



ディスプレイされた押絵

商業的な色合いが強くなり、初期のころのものとは比べると安価な材料を使っていることがわかります。押絵は今も大勢の方に愛されています。公民館などでも継続的に講座が開催され、地

## PARCO de MUSEUM

FDA神戸線の利用者に「パルコde美術館」の観覧券が配布され誘客に一役買っています。ほかにも、関連事業としてパンとお菓子のマルシェ&ヤポンスキーこぼやし画伯の原画展、Cinema+Museumを開催し、コロナ禍で落ち込んだ松本を盛り上げるイベントの一つとして期待されています。松本の魅力を再発見する散策に出かけてみませんか。

視点

③ 学生と住民がつながる  
松本大学  
茶房「ひといき」

世代を超えた交流

松本大学の学生プロジェクト、茶房「ひといき」は、学生と地域住民の居場所づくりに取り組んでいます。「みんながお茶を飲みながらゆつくりと話せる場所になりたい」という思いから、茶房「ひといき」の名が付けられました。

現在は月に1回程度新村地区多目的研修センターで開いています。参加する高齢の方と一緒に、コーヒールを飲みながら、昔の遊びや踊りなどで交流します。学生も住民も話に

夢中になり、時間が過ぎるのがあつという間です。10月の開催日には、30人を超える多くの方々に参加されました。

つながりを繋ぐ

活動当初、学生に対して暗いイメージを抱く住民は少なくありませんでした。しかし、交流の積み重ねが学生と住民につながりを生み、今では孫のように親しみを持って接する関係へと深化しています。新型コロナウイルス警戒レベル



手紙を手渡し

が高くなり、顔を合わせて交流ができない状況でも、住民とのつながりは途絶えません。学生たちは住民の一人一人を思いながら、手書きの手紙を送りました。前リーダーの千野さんは「返事が返ってくるのが嬉しい、場を忘れないためにもやって良かった」と話しました。

学生と住民の居場所

リーダーの上林さんは「初めて参加した時は、誰とも喋ることができなかった、通ううちに地域の人と少しずつ話せるようになった」住民の上野さんは「家にいると喋る機会がない、若い人と話せて楽しい」と語ります。

学生と住民の交流に世代の



世代を超え会話を楽しむ

隔たりはありません。会話を通して互いの心が通じ合い、高齢の方と話すことは、時に学生を大きく成長させます。そこに広がる空間は、誰でも楽しむことができる、いつ訪れてもほっと「ひといき」つける、学生と住民の居場所です。

写真でつづる  
まつもと今昔⑤7

～ 田川に架かる百瀬橋の落成式 ～



(撮影年代不明)

百瀬橋の落成記念式典で、羽織はかまの役員たちが、小さい俵に入れた餅を投じている。河床は極端に浅く、川原は石だらけで、今とは様子が異なっている。



(撮影：2021.10.13)

現在の百瀬橋は、平成元年8月に落成したコンクリート橋で、平成29年度に補修工事されている。山の形は変わらないが、河床の深さと橋桁や堤防の構造の違いは一目でわかる。

おこひる

金魚や鯉といえば日本では代表的な「観賞魚」である。小学生時代に教室で金魚飼育をした人も多いことだろう▼我が家も長年

にわたって金魚を飼育してきた。そんな我が家に新たな観賞魚として「熱帯魚」を迎えて3年と半年が経った。飼育にあたり、さまざまな情報を確認して世話を続けている。その甲斐もあってか、最初に迎えた熱帯魚の2世、3世が誕生し繁栄している。水槽に植栽した水草たちも豊かに生い茂り、その範囲を拡げている▼最近では新型コロナウイルスの影響による「おうち時間」の増加で、観賞魚の需要が拡大していると聞いた。水槽内で泳ぐ魚たちに癒されることだろう。観賞魚飼育の分野が盛り上がっていることは非常に喜ばしい▼しかしながら心配もある。飼育放棄による違法放流だ。衝動的に飼育を始めて世話ができなかったり、予想外に繁殖して手に負えなくなり、河川などに放流して各地固有の生態系を破壊してしまう。「多摩ゾーン川」の様な事にならぬよう、責任を持って飼育してほしい。

# 歴史探訪 探ろう松本25

## 江戸時代は尾張藩の領地 奈川地区

松本市西南部に位置し、集落は山間部に点在しています。水田は少なく蕎麦や雑穀・野菜を作っています。

### 尾張藩公認の運送業

飛騨と信州をつなぐ野麦街道は、道が険しいため傾斜に強い牛が主な運搬手段でした。奈川では豊かな森林資源を利用し、白木材の生産が盛んで、江戸への販路を求め江戸と水運でつながる、今の群馬県高崎まで運送しました。

当時は街道宿駅ごとに荷物を引き継ぐ規則でしたが、尾張徳川家の公認を後ろ立てて、直接目的地まで運搬できる特例を「尾州岡船」として認められました。牛方1人で5頭の牛と積荷の管理をする大変な仕事でした。このほか中部圏各地や新潟までのルートもあり、最盛期には牛方80人、牛40頭がいました。山間地にこれだけの事業が



尾州岡船の鑑札

あったのは珍しいことで、明治初期まで続きました。

### 奈川名物「とうじそば」

味が良い奈川在来種の蕎麦は高値で取引される都市部へ多く出荷されていましたが、近年は飲食店組合や生産者の提唱で、地元消費がほとんどになりました。

寒い土地柄なので、冠婚葬祭の列席者に温かい蕎麦を最初に食べてもらおうと、小ぶりの汁椀で提供したのが「とうじそば」の始まりです。



名物「とうじそば」

### 住民自治と結びつき

集落が散在という点は、長い間住み続ける住人が多いということと相まって、相互理解を深めました。助け合う意

識が住民自治感覚を前に進めて、昭和29年から女性消防隊が発足し始め、39年には15町会すべてに出来ました。女性用の放水器具も揃い消火体制が整いました。

昭和58年の降雨災害時には集落ごとに避難・救助など行動して人的被害を減らせたのは集落内の結束の成果だと評価されています。



女性消防隊の救命訓練

### 将来へ向けて

人口は626人(10月1日現在)で、高齢化率も5割を超えましたが、若い人の協力も得て、伝統の奈川獅子舞を続けるなどの活動も行っています。

豊かな自然をアピールし数件の移住家族を受け入れました。3カ所80区画あるクライングルテン(滞在型市民農園)も好評です。「住んでいて良かった 来てみて良かった 奈川」をテーマに観光・環境・健康などを推進しています。

## 松本平の野鳥たち

全長約29cm、くすんだ緑色した日本特産のキツツキで、長野県内で見かける同種の中では最大。平地から山地にかけての森林を好む。キョッキョツと鳴きながら樹の幹や枝などを移動して餌をあさる。秋から冬には市街地にも飛来する。

アオゲラ  
(撮影:2021.5.13 松本市)



## まつもと散歩

揺れるコスモスの花の中で  
ひろがる未来を指さすふたり  
秋の終わりに出会った、しあわせの風景



(撮影:2021.10.15 新村)